# 第52回 令和6年

### 新潟県指定無形民俗文化財

# 三条かぐら鑑賞会

日時 10月6日(日)午後1時開演 会場 三条市中央公民館大ホール



主 催 三条市・三条神楽保存会

後 援 新潟県、新潟日報社、 株式会社三條新聞社、NCT、 ケンオー・ドットコム合同会社

### プログラム

1 開会のことば 三条神楽保存会会長 五十嵐 祐士

2 主催者あいさつ 三条市長 滝沢 亮

3 かぐらの演舞 (解説)神明宮禰宜 三上 正行

(1) 先稚児の舞 田島 諏訪神社

(2) 宮清の舞 三 条 八 幡 宮

(3) 地久楽の舞 大 崎 中山神社

(4) 悪魔祓の舞 保 内 小布勢神社

(5) 五行の舞 田島 諏訪神社

(6) 鳥形の舞 三 条 八 幡 宮

(7) 五穀捧の舞 塚野目 白山神社

(8) 福神遊の舞 一ノ木戸 神明宮

(9) 奉幣の舞 一ノ木戸 神明宮

1 閉会のことば - 三条市市民部長 長谷川 考基

### 三条神楽が見られる日と場所(奉納日程)

八 幡 宮 (三条市八幡町12番18号)

春季本祭 5月16日 午後 秋季本祭 9月15日 午後

神 明 宮 (三条市神明町3番9号)

春季宵宮 4月28日 夜 春季本祭 4月29日 午後、夜

秋季宵宮 9月22日 夜 秋季本祭 9月23日 午後、夜

献灯祭 1月14日 夜

諏 訪 神 社 (三条市田島二丁目 11 番 9 号)

春季宵宮 本祭りの前日 夜 春季本祭 4月第2日曜日 午後

秋季宵宮 本祭りの前日 夜 秋季本祭 9月第2日曜日 午後

白山神社 (三条市塚野目五丁目 16番 14号)

春季宵宮 4月17日 夜 春季本祭 4月18日 午後

秋季宵宮 本祭りの前日 夜 秋季本祭 9月最終日曜日 午後

中山神社 (三条市西大崎二丁目 23番 16号)

春季宵宮 本祭りの前日 夜 春季本祭 4月第3日曜日 午後

秋季宵宮 本祭りの前日 夜 秋季本祭 9月第3日曜日 午後

小布勢神社 (三条市上保内丙 1288 番地)

春季宵宮 4月14日 夜 春季本祭 4月15日 午後

秋季宵宮 本祭りの前日 夜 秋季本祭 敬老の日 午後

### 1 先稚児の舞

#### 田 島 諏訪神社



鎌倉時代の「越天楽今様」を基にした神楽 で、白拍子の舞がモデルです。

鈴は三種の神器を表し、季節の天候を表現 しています。三条神楽では稚児舞として舞われ、難しい舞であり、太鼓と笛の拍子も長い です。儀式の意味でも重要な神楽です。

### 2 宮清の舞

### 三条 八幡宮



大児産根帯の神染として、大の岩戸の変で起こった 神話に基づいています。

神々を祓い清めるために、木を抜く動きや祝詞の唱 え方を模した動きがあります。舞の顎部分は、祝詞を 唱えながら舞っている様子を表現しています。

天児屋根命は、天孫降臨で中臣氏の祖となりました。 この神楽は主に春日大社で祭られています。

### 3 地久楽の舞

#### 大 崎 中山神社



天地長久を祝して、天忍日命が天岩戸の大前で、 天地とともにみんなの安全を祈ったことに由来する 舞です。

また、この舞は能狂言の「三番叟」の装束で鈴を もって舞う形が、それに似ていることから、俗に「さ んばさ」とも言われています。

### 4 悪魔祓の舞

#### 保 内 小布勢神社



※でぬしのかか 経津主神の神話を基にした邪気を祓う舞です。経津 主神は天孫降臨に先立って地上に降り、荒ぶる神を鎮 めたとされますが、なぜ単独で舞うかは分かりません。

しかし、経津主神は藤原氏の氏神であり、春日大社 や香取神宮の御祭神として重要視され、武神としても 有名です。舞は踏み締めを意味する前半と、刀を抜い て激しい動きで荒ぶる神を祓う後半に分かれ、神曲と 共に舞われる神楽です。

### 5 五行の舞

#### 田 島 諏訪神社



この舞は、他県では「国堅め」といって 五色の幣をもって舞っていますが、三条で は神代より五つの誓、すなわち仁・義・礼・ 智・信、これを五つの宝珠に現わし、人倫 の道を教え、天下太平、世の安泰を祈る舞 だと言われています。

### 6 鳥形の舞

### 三条八幡宮



天岩戸の変の折、思金神の計らいにより夜明けを告げる常世の長鳴鶏を鳴かしめられました。天照大神は岩戸の中にあって、朝を告げる長鳴鶏が鳴き、神々が笑いさざめていることを不審に思われ、岩戸の扉を少し開けて外をのぞかれようとした時に、天手力男命が岩戸のすき間に手をかけ、扉を開き天照大神をお出し申し上げました。

この舞は、その故事にならい、常世の長 鳴鶏を形どって舞われる舞で、動作には鶏 の生態をそのまま写し出している所が多 く見られます。

#### 塚野目 白山神社



この神楽は収穫終了後に五穀を 神々に奉納するために行われるもので あり、三条神楽の中でも最も難しい神 楽です。

舞は始まると止まることなく一拍子もズレずに行われ、足の歩数と鈴の鳴るタイミングが重要です。舞はお互いがほとんど見えないため、パートナーとの組舞として完璧に行う必要があります。

### 8 福神遊の舞

### 一ノ木戸 神明宮



恵比寿、大黒の舞です。互いに失敗を 無言劇風にからかい合いながら舞は進め られ、最後に恵比寿が大きな鯛を釣りあ げ、大黒も大いに協力し喜び合います。

恵比寿が大きな鯛をかかえて退場する と、大黒は拝観者に菓子を撒いて退出し ます。

## 9 奉幣の舞



### 一ノ木戸 神明宮

天岩戸の変の折、天児屋根命が、天香山の五百津真賢木を根こぎにし、その たただに白和幣と青和幣をかけ、天照大神の岩戸からのお出ましを願う祝詞を奉上 した故実に基づく舞です。

なお、この舞は岩戸開きの舞の最後に 舞われるものですが、これだけをとり出 し、その日の舞列の最後に舞われます。

### 三条神楽の由来

三条神楽は、出雲神楽系統に属する神楽です。出雲神楽は、岩戸開き神話を中心とし、その他古くから出雲大社に伝わる神事や、神社の縁起を新たに取り入れ演じられた神楽です。その出雲流の神楽が、山陰から北陸を経て三条の地に伝えられたものと考えられます。

江戸時代の文化8年(1811)には、三条(八幡宮)で神楽が舞われていたことが、古記録に残っていることから、その起源はさらに遡るものとみられます。

ふつう5舞か7舞を伝えるものが多いなかで、三条神楽は32舞も保存されていて、たいへん珍しいため、昭和38年3月、県の無形民俗文化財に指定されました。このようにすぐれた郷土芸能を、広く市民のみなさんから知っていただき、後世に伝えるため、三条市および三条神楽保存会では、後継者の育成に努めています。研修会や講習会などをとおして研鑚を重ねる一方、ビデオや映画に収録したり、本にまとめたりして、当市の伝統芸能の保存をすすめています。

# 新潟県指定無形民俗文化財

#### 三条神楽32舞の演目

1 先稚児の舞	9 鳥形の舞	17 天川の舞	25 杵樹の舞
2 宮清の舞	10 羽返の舞	18 奉幣の舞	26 宝剣作の舞
3 悪魔祓の舞	11 岩戸開の舞	19 小弓遊の舞	27 深山錦の舞
4 鎮護鉾の舞	12 地久楽の舞	20 四神の舞	28 神勇の舞
5 久奈戸の舞	13 稲田宮の舞	21 五行の舞	29 五ツ刀の舞
6 五穀撒の舞	14 榊の舞	22 大鉾の舞	30 三座返の舞
7 五穀捧の舞	15 花献の舞	23 天孫降臨の舞	31 宮司舞
8 太平楽の舞	16 福神遊の舞	24 末広の舞	32 乙女舞